

大空に翔ける



令和元年度 日之影中学校だより



2月号
校長 伊東泰彦

二年生の立志式を行いました！

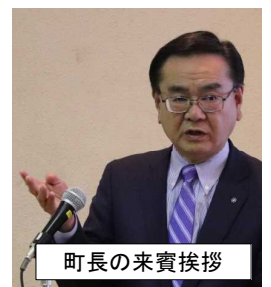


2月7日(金)の参観日に合わせ、佐藤貢町長や橋本範憲教育長など来賓の方々のご臨席を賜り、2年生の立志式を開催しました。

もともと立志式とは、江戸時代の武家の子どもが数え年15歳で元服する際に志を立てる慣習が始まりとされております。将来の自己実現に向けて志を立てるためには、今の自分としっかり向き合い、これからの社会情勢を踏まえておく必要があります。こうした自分自身と向き合う時間は、昔も今も変わらず、大切な「人生の節目」であると私自身も思っており、式辞では「竹、節ありて強し」という言葉を生徒に送ったところでした。



また、佐藤町長からは来賓あいさつで「日之影の名前の由来を理解し、日之影に誇りをもつ人材になって欲しい」旨のエールをいただきました。



町長の来賓挨拶



職場の魅力をPRする生徒



日之影の魅力を知るには、観光協会が必要だ！

生徒作成のPR動画

工藤庄吾さんのコメント



立志式第1部では、「ふるさと日之影で学んだこと」と題し、11月末に町内の職場学習で発見・体感した各職場の魅力を、自作のPR動画にまとめて発表しました。初の試みでしたが、受入事業所を代表し、アグリファームの工藤庄吾さんからもお褒めのコメントをいただきました！

全体合唱

また第2部では、各生徒がそれぞれの立志の言葉を発表しました。今の自分と向き合い、今後の自己実現に向けた素晴らしい言葉が述べられ、生徒たちの成長を感じました。3年生が卒業した後をしっかりと引継いでいけると思います。

第2部での発表



1年生がGIAHS中学生サミットに参加！

1月25日（土）、高千穂町で開かれたGIAHS（世界農業遺産）中学生サミットに、本校からは1年生が代表で参加しました。

生徒たちは「日之影に生きる私たち」と題し、日之影の自然や歴史、文化について学んだことをもとに、それをどう生かしていくべきかについて発表。

その後、他の中学生参加者たちと対話を通して意見交換をしていきました。

こうした対話や協働が生徒たちをどう成長させるのか、とても楽しみです！



※この発表の様子は、2月8日のMRT教育広報番組で特集されました！

3年生の受験が始まりました！

3年生たちが自分の進路実現に挑む「高校入試」が、いよいよ始まっています。

生徒たちは、1月28(火)・29(水)に私立高校受験、2月5日(水)に県立高校の推薦入試、そして3月4・5日に県立高校の一般入試に挑みます。

今年の3年生の受験校は、次のような状況です。

私立高校 延岡学園高、聖心ウルスラ学園高（以上、延岡市）

宮崎日大高、宮崎第一高、鵬翔高、日章学園高（以上、宮崎市）

県立高校 高千穂高校、延岡高校、延岡星雲高校、延岡工業高校、日向高校、宮崎工業高校

今年の3年生たちは、勉強はもちろんですが、スポーツや音楽を伸ばす進路に進む生徒も多く、非常に個性あふれる人材がそろっています。また、4月の頃と比べると「堂々と自分の考えを述べる」、「自分の将来についてきちんとしたビジョンをもっている」、「複雑な自分の想いを分かりやすく表現できる」ようになり、面接の受け答えや対話がずいぶんうまくなりました。

中学を卒業すると、進路はそれぞれバラバラになり、日之影町外に住む生徒も増えます。

この町でお世話になった時間を忘れず、ぜひとも、目標としている進路を実現して欲しいと思います。

がんばれ！三年生！！



いろいろな行事で活躍する生徒！

市町村対抗駅伝大会

1月13日に宮崎市で開催された大会で、男子2名と女子1名の中学生が走りました。

各市町村ののぼりが立ち並び、巨大な声援と期待を受けて走る生徒の姿はいつもより大きく見えた気がします。



大人夜神楽

1月11日に大人の夜神楽を観に行きました。夜神楽を33番やるのは、大変な文化継承なのだ実感しながら、見事な舞と体に響いてくるリズム感を楽しませていただきました。

中学1年の山本君と鮫島君の颯爽とした姿がとても印象的でした！

町民のつどい

2月9日は町民のつどいでした。最初に小中学生・意見発表会がありましたが、小学6年生の発表のあまりのすばらしさにまずは感動しました。

ただし、さすが中学生。上級学校の生徒らしく更に上をいくパフォーマンスを披露してくれました。



午後は吹奏楽部の生徒が大人の方たちとコラボ演奏をしました。秋に予定されていた音楽祭が中止になった分を、この演奏で披露してくれました。成長を嬉しく思います。



ひのかげの郷

日之影の名所の一つに「戸川の石垣」がある。阿蘇山噴火の凝灰岩を利用した見事な石垣が織りなす棚田は、日之影・世界農業遺産の代名詞ともいえる絶景である。東京工業大学の真田先生は、「石積みの技こそは江戸時代の住民にとっての必須技能だった」と評されているが、確かに町内ではいたるところで、石積みとセットの見事な棚田を見ることが出来る▼また日之影では、石垣の他にも近世（江戸時代）に造られた見事な石橋があちこちに残っているそうであり、是非近くで見たいと思つていたら、先日、高齢者教室の方々と一緒に深角眼鏡橋（写真左下）を見学する機会を得た。その橋は、国道28号線に架かる深角橋のほぼ真下に佇んでいる▼険しい崖と草木に阻まれ見学は容易でないが、昔の往還沿いに残る石碑（写真右下）によれば、架橋は天保十一（一八四〇）年で、県内でも最古の石橋だそうであるから、苔生（こけむ）した石肌もまた風情が漂う。6mにも満たない長さではあるが、熊本県南関町の石工を招いての架橋には、谷沿いの往来に利便性を願う当時の往来者の想いや、石碑に刻まれている「天下泰平萬民安全」という優しい村人の想いが凝縮されているのだと感じさせられる。先に見た鶴の平のアーチ石橋（写真最下段）とはまた異なる風情である▼ところで、深角眼鏡橋の供養碑だが、正面にお辞儀をするかのようになり傾いて建てられている。地震の影響で傾いたわけではなく、「長い歳月の間も風雨で刻字が風化しないように」という先人の知恵だそうである。この石碑の傾きは西深角の別の場所にも同様に見られており、日之影の方々が遙か昔から、深い思慮と思いやりに溢れた人情・民俗文化を有しておられることを物語っている。（校長・伊東泰彦）



左) 深角眼鏡橋
中・右) 深角橋供養碑（1840年建立）

▼鶴の平橋（江戸末期）



▼西深角の石碑



正面に刻まれた文字が風雨で劣化しないように、わざと正面が下を向くように石を傾けて建ててある。

【2・3月の主な行事】

2月

- 12～14日…学年末テスト
- 18日…新入生保護者説明会
- 20日…スクールバス感謝集会
- 21日…全校集会
- 25日…町教職員教育論文表彰式

3月

- 4・5日…県立高校一般入試
- 6日…送別行事・球技大会
- 9日～…3年生特別時間割
- 16日…第73回卒業式
- 26日…修了式
- 27日…春休み
- 30日…離任式（午前中）



【参考】11.28校内ハローワークで体験した石橋模型づくり